

竹原管内景況調査

12月の景況DIは、製造業、非製造業共に好転

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和5年12月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

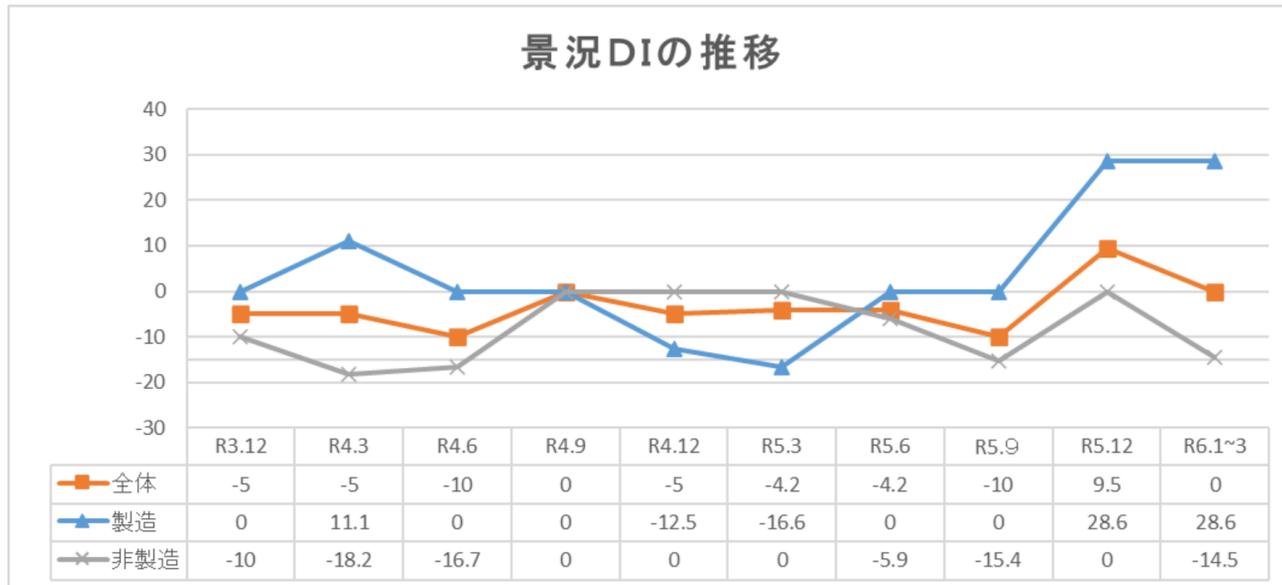
調査概要
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和5年12月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	13	7
建設	5	3
小売	12	7
サービス	16	4
合計	46	21

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



12月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は28.6ポイント好転、非製造業は10.5ポイント悪化しました。12月と比べて1月~3月までの見通しは、全体では、9.5ポイント悪化しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

《製造業》

- ・飲食店用、輸出用の需要が伸びた。(日本酒)
- ・受注量が増加した。(ゴム製品)
- ・海外市場の平常化のため。(精密機械)

《非製造業》

◇建設業

- ・ある程度手持ち工事がなくなる。今後は官民ともに受注が期待できる(建築工事)

◇小売業

- ・イベントにおける販売がわずかに増加したため。(衣類)
- ・小中高の学校などの人数減少(卒業アルバム)、成人式レンタル減少。(写真)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)